

会 議 録

会 議 名	令和6年度第1回東松山市スポーツ推進審議会					
開 催 日 時	令和6年9月4日（水）			開 会	午後1時30分	
				閉 会	午後3時00分	
開 催 場 所	東松山市総合会館1階 多目的室					
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状交付 3 あいさつ 4 自己紹介 5 会長の選出 6 議事 第3期東松山市スポーツ推進計画（令和5年度）の実績について 7 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	0人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	会 長	森 浩 寿	出席	委 員	奥 野 清	出席
	委 員	河 野 喜 男	出席	委 員	長 澤 誠	出席
	委 員	木 阪 尚	出席	委 員	梶 田 英 司	出席
	委 員	田 中 透	出席	委 員	山 崎 秋 良	出席
	委 員	鈴 木 正 弘	出席	委 員	梅 澤 行 子	出席
	委 員	七 五 三 和 孝	出席	委 員	若 林 茂	欠席
事 務 局	教 育 長 吉 澤 勲			生涯学習部長 柳 沢 知 孝		
	生涯学習部次長 田 島 信 子			スポーツ課ウォーキング推進係長 根 岸 健 一		
	スポーツ課主査 長 島 靖 幸			スポーツ課主任 高 橋 沙 織		
	スポーツ課主事補 坂 井 悠 真					

次 第	顛 末
1 開 会	<p>－開会宣言－</p>
2 委嘱状交付	<p>－委嘱状交付（代表 森委員）</p>
3 あいさつ	<p>－吉澤教育長挨拶</p>
4 自己紹介	<p>－各委員・事務局自己紹介</p>
	<p>－委員出席状況の報告</p>
5 会長の選出	<p>委員より森委員を推す声あり。</p>
	<p>－森委員 会長へ就任</p>
	<p>－森会長 挨拶</p>
	<p>－森会長より職務代理者に河野委員を指名。</p>
6 議 事	<p>－配布資料確認－</p>
	<p>－森会長の進行に代わり、議事の進行。</p>
	<p>－議事録署名人に河野委員、木阪委員を指名。</p>
	<p>－会議の公開及び傍聴人の有無について確認。</p>
	<p>●「第3期東松山市スポーツ推進計画（令和5年度）の実績について」</p>
	<p>－事務局より資料説明</p>
	<p>（梶田委員）</p>
	<p>指標4「日本スリーデーマーチに参加したことがある市民の割合」の元</p>
	<p>となる市民意識調査の対象者には小中学生は入っていないが、次回の指標</p>
	<p>には含めてはどうか。</p>
	<p>（事務局）</p>
	<p>今期の指標自体の変更はできないが、参考として、次回以降の審議会資料に追記する形で記載することは可能である。指標自体の変更は次期計画</p>
	<p>策定の際の検討となる。</p>
	<p>（梶田委員）</p>
	<p>今期計画の進捗ではこの表記で良い。参考での記載は不要である。</p>
	<p>指標である「参加した市民の割合」というのであれば小中学校を含めた</p>
	<p>方が良いと思ったところ。次期計画では「事業へ参加した市民の割合」の</p>
	<p>指標の計上方法は検討課題かなと感じた。</p>

(奥野委員)

実績のスリーダー参加者数には小中学生の参加数も含まれている。

指標の基準が市民意識調査からの数字であるため、一度設定した指標を動かすのもどうかと思う。どこからの数値であるかが明らかになればよいのでは。

(河野委員)

指標や注記で小中学校は含まれていないとわかる文言を入れては。

(田中委員)

市民意識調査では小中学生は含まれていないので、小中学生の参加は別として考えれば良いと思う。また、小中学生はスリーダーマーチにはほぼ全員参加しているので、年々参加したことのある市民の割合は増えていくということもあり、指標はこのままで良いと思う。

(森会長)

指標の立て方は次期計画策定時に検討をした方がよいと思うが、新たに調査をすることはできないと思うので、既存のデータを参考にするという方法も一つあると思う。誤解を招かない表現は必要である。

小中学校の参加は実績報告のなかで触れるのもひとつでは。

ほかに意見は。

(奥野委員)

実績というところではウォーキングのなかで埼玉県ウォーキング協会の事業で市民が参加している例もあり、市レクリエーション協会の組織の中の歩こう会という組織でも月例事業で市民の参加がある。市全体の実績とすれば、そうした数字を指標に反映させてもよいのでは。

(事務局)

今回の計画においてはウォーキングセンター事業等、市の事業参加者数が指標となっているが、そうした事業参加を指標にするのも考え方としてあると思う。次期計画の指標の参考としたい。

(森会長)

そのほかに意見は。

(七五三委員)

指標6の満足度の数値が低いのは市民意識調査の回答によるものとあるが、調査はどれくらい出しているのか。

(事務局)

令和4年度に実施された市民意識調査では配布が2,000件、回答が1,122件で56%程度の回答率となっており、年齢層が均等になる様に抽出をして調査をかけた。

一方、計画策定にあたっての事前アンケート調査では同じく年齢層が均等になる様に抽出し、配布数は2,000件、回答が1,040件、回答は52%であった。

満足度の数値が少なかった理由は市民意識調査における設問に問題があったことが要因であり、次回の市民意識調査では計画策定時のアンケート調査と設問を揃えたため、数字は同じ程度に戻ると考えている。

(森会長)

当該数値がコロナの影響で使えなかったという不満もあったのではないかと話もあったかと思う。

(山崎委員)

推進項目3において、スポーツを楽しむ環境づくりに資する取組が挙げられているが、事業参加者からのアンケート調査でもチラシを見て参加をしたという人数も多い。取組の結果実績に繋がっているので、チラシ配布も取り組んだ実績に入れても良いのでは。

(森会長)

告知と募集方法について費用対効果を考えると小学生の場合はチラシが一番効果が高い。メールではなかなか参加に繋がらない傾向があると思うが、チラシを配布するのは学校としてはどうか。

(長澤委員)

学校では色々な所からチラシ配布依頼があり、日によって二桁程度のチラシを配布することもあるため、仕分け作業等、手間ではないとは言えないところがある。

ペーパーレス化も進んでいるので、それも検討するのも一つだと思う。

(森会長)

市の事業で関与している発見教室でもチラシや広報等、多々工夫を凝らして周知をしているところ。

一方で他市の事業で周知をメールのみにしたところ、かなり集まりが悪かったという例があった。ペーパーレス化も言われているが、効果を見るとまだ効果がチラシに追い付いていないと思う。

(山崎委員)

推進項目2で事業が中止とあるが、中止の理由を入れてもよいと思う。

(森会長)

ここはなぜ中止となったのか。

(事務局)

事業参加人数が少なかったからである。

(森会長)

推進項目3に関連して、最近の猛暑を受け、体育館等へ空調設備を入れる計画や見通しはあるか。

(吉澤教育長)

小中学校の体育館には今年度以降、順次空調設備を入れるため、設計・工事を進めて行く予定である。

(森会長)

ぜひ、進めていただければ、と思う。他に何か意見はあるか。

(長澤委員)

暑さ指数に応じて運動を止めるという風潮を学校だけでなく社会全体で持たなければならないと思う。そうした啓発も今後必要と感じている。

(森会長)

その辺りではスポーツ協会ではいかがか。

(田中委員)

例としてテニス協会では8月は朝から暑さ指数が基準を超えるため9月に大会時期をずらしたが、それでも暑い日がある。

暑さに加え、9月は落雷での中止もあり、予備日を多く設定しないと終わらない状況であるが、どこの団体も日程がない中やっているのも実情。

秋やほかの季節にずらしての実施ではそこに大会が集中してしまい、場所が取れず、苦慮している。

(森会長)

欧米ではシーズンスポーツの考え方が一般的であり、日本もその時の気候にあったスポーツを実施するというのはスポーツ人員の確保という観点からも有効な考え方の一つではないか。

夏休みだから、と夏にこどもの大会が多くあるが、今までの考え方を変えていかないとメジャーな競技のみが生き残ることになってしまう。

(河野委員)

W B G T 指標が国から盛んに言われている。それを我々がアピールするのが必要だと思う。

(森会長)

昔、スポーツに関して雪崩や落雷の事故があったが、注意報が出ていたのであれば、予見はできたと判断される。今では事故が起きると刑事責任が問われる時代である。

大会を終わらせようという意識が出てしまうが、止める判断も必要。

事故が起きてからそうした意識を変えるのでは遅い。

(奥野委員)

ウォーキングでの取り組みで言えば、オランダのフォーデーズマーチでは数年前に熱中症による死者が出、以降の日程が中止となった例がある。

今年も大会があったが、気温が高く、距離を落としての開催としたりといった判断を大会側がやっていた。

主催者側が色々な情報を持って中止を判断するべきである。

様々なウォーキングイベントが7・8月にも実施されているが、実施して欲しいという声等もあり、時期をずらす等の対応に踏み切れない現状もある一方で、今年は熱中症警戒アラートが前日に出るため、その時点で実施の判断をしているほか、予想数値によっては来ないように、と呼びかけをしている。

今はアプリ等で雷等の詳細な情報が見られるため、事業の短縮あるいは中止をする等の判断に利用できるのではないか。

今後はそうした判断ができる指導者を育てていく必要がある。

ウォーキングに限らず、そうした指導者を育てる講習が欲しいと思う。

(河野委員)

W B G T 計の配備状況は。何か掲示もしているか。

(事務局)

有人施設には備え付けている。計器の下に指標に関する掲示物を貼付しているほか、指数が31を超えた場合、管理人より声掛けを行っている。

(森会長)

草加市の獨協大学ではW B G T の指数が基準を超えると使用禁止となる。

5 閉 会	私立大学だからそこまで徹底した対策が取れるのだと思うが、市ではそこまでの対策はなかなか厳しいと思う。 ほかに何か意見は。ないようであれば以上とします。 －柳沢部長より閉会の言葉
-------	--

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和6年9月20日

署名委員 河野 喜男

署名委員 木阪 尚